

国の衰退の兆しではない、「人道的実現に向けたリーダーシップを展開する」、「軍事行動に拠らない人道的アプローチで世界をリードする」などというような、何か鳩山元首相の演説を聞いているようなところもあるわけです。そういうところで、今後の米国の動向変化には、しっかりウォッチして行く必要があると思います。

中国の台頭が、客観的にどのような状況かを簡単に振り返ってみたいと思います。経済成長については2011年にGDPは日本を抜いて第2位になりました。そして2020年にはアメリカに追いつく、追い抜くのではといわれています。軍事力は、これはもう本当に異常です。国防費は26年間二桁の伸びですから、1989年時から約40倍になっています。過去10年でも4倍ですので、異常というしかない。非常に不透明なところがあるのも問題です。

〔中国の台頭と関与政策〕



〔中国の海・空戦力の近代化〕

航空戦力としては、もともと中国の空軍は北京を守る空軍であったのですけれども、これが攻防兼備で、攻めることもかなり重視してきた。それで次世代ステルス機などを開発中という話も出てきているところがあります。

アメリカの国防省が中国の軍事力を分析した、いわゆる年次報告書が6月に出了た。「軍の近代化については、潜在的有事への準備をしている」ということ、そして「特に海警局——つまり公船ですが——軍ではなく法執行機関の能力もかなり上げている。領有権の主張を一段と高めるであろう」というように書いてあります。

国産の空母は当初、2010年代に出るとというのが2020年代と若干遅れて公表されています。

「中国の軍事・安全保障に関する年次報告書2014」

「中国の軍事・安全保障に関する年次報告書(2014)」

米国防総省2014.6.5

※軍の近代化

「台湾有事+南シナ海、東シナ海での潜在的有事への準備」

※海警局の海洋監視能力

今後10年で25%向上→「領有権の主張を一段と高めるだろう」

※海軍の強化

近海用新型艦艇コルベット056型→13年度9隻、更に20~30隻建造

強襲揚陸艦→2020年までに建造

初の国産空母→2020年代初頭に就役（「10年代後半」を修正）

※空軍の近代化

「史上例のない規模で近代化を追及→欧米との差を急速に埋める」

※国防費（2013年度）

1195億ドルより21%多い1450億ドル（約14兆8320億円）を超える

「空軍については特に史上例のない規模での近代化」と、「欧米との差を急速に埋めてきている」ということで、国防費については公表より約20%多いということをおっしゃいます。

次に、中国の領土や領域に関する考え方について考えてみたいと思います。一言で言うと、「力が国境を決める」というのが中国の伝統的な考えです。「華夷秩序」、「冊封体制」など、基本的な考え方としては「中華思想」、自分が一番高い文明で、距離が離れば離れるにしたがって「東夷、西戎、南蛮、北狄」といって、せいじゅう、なんばん、ほくてき)のように野蛮な国になる。その力が及ぶ範囲が自分のテリトリーである。そして「その中にある国は自分に対して貢物を持って来い、さすれば王様として認めてやろう。従う限りは悪いようにはしない」といって冊封体制の考え方は今なお脈々と生きてくるのです。

領土、領域に対する中国の伝統的発想

「力が国境を決める」 = 「華夷秩序」「冊封体制」



南シナ海「2000年前から管轄権確立。国連海洋法条約の前」
「尖閣は600年前から」「沖ノ鳥島は岩、EEZは認めない」
「沖縄は中国のもの」（毛沢東）



中国による
ウイグル弾圧



チベット僧侶の
焼身自殺

最近の気になる動き

2013年5月8日人民日報「沖縄の帰属は未解決」

10日環球時報「琉球国復活に向けた勢力育成」

15日「琉球民族独立総合研究学会」発足

☆中国にどう対峙するか→「関与政策」

もともと中国のテリトリーはこの白い部分であったのですが、1955年ウイグル自治区確立、チベット併合、1947年内モンゴル併合、60年間で二倍の面積になっています。南シナ海についても「2000年前から管轄権を確立している」と、それは「我々は実力を持ってきたから、そこまで力が及ぶから我々のものだ」と、こういう話です。¹¹

尖閣は600年前、つまり明の時代の宦官鄭和（かんがんていわ）が、東シナ海、南シナ海そしてインド洋、アラビヤ半島まで行ったのですが、「尖閣はこのエリアに入っているから、我々のものだ」こういう話です。だから当然、沖縄も自分のものだということです。

この考え方を習近平が自分の言葉で語ったのは、5月21日に「アジアの新安保構想」です。6月に新しいタイプの「大国間関係」というのをアメリカに打診するのですが、要は「核心的利益をお互いに尊重しよう」と、それで「住み分け」しようと、「太平洋を二つに割ろうじゃないか」という考えなのです。

〔アジア新安保構想〕

「アジア新安保構想」 2014.5.21上海
習近平：「アジア相互協力信頼醸成措置会議」(CICA)で提唱

経緯
2013年6月 米中首脳会談「**新しいタイプの大国関係**」提案
→核心的利益を尊重、「住み分け」
2014年4月 オバマ、アジア歴訪→「対中国抑止」

内容
「**アジア安全観**」の下に「**平等協力**」をうたう新外交戦略
・「アジア安全観」→互いの主張、領土保全を尊重、内政不干渉、
平等な立場で安全に関する協力を推進
・「**アジアの問題はアジアの人々が処理し、
アジアの安全はアジアの人々が守る**」
実態
・アジアから**米国を排除、中国が主導**
・「**リバランス**」に対抗→「軍事同盟は冷戦思考」
・**海洋権益の確保**を加速

※**現代版「華夷秩序」「冊封体制」**
圧倒的な軍事力を背景→中国支配の下での「**平等**」

「アジア安全感」の下に「平等協力」をうたう外交戦略なのですが、こういうことを書いています。「アジア問題は、アジアの人々が処理し、アジアの安全はアジア人が守る」つまり、米国を排除して中国が主導するということなのです。現代版「華夷秩序」、「冊封体制」、中国支配の下での平等というのを習近平自らの言葉で語ったということなのです。

12

これは伏線として、「新型の大国間関係」というのがあるのです。この始まりは「G2論」にさかのぼります。カーター政権時、1970年代後半に親中派のブレジンスキーが、「中国は大国になる、これからも大国になっていく、アメリカも大国だ、二つの大国で新しい世界の平和秩序を作ろうではないか」と「G2論」を初めて打診しました。その時は、中国も実力がないものですから、何も応えなかった。そして実力が付いてきた頃、2010年に、第2回「米中戦略・経済対話」で戴秉国国務委員がこれを持ち出しました。

「G2論から新型大国間関係へ」

「G2論」から「新型大国間関係」へ

- ・「G2論」→カーター政権、親中派ブレジンスキー大統領補佐官が提唱
- ・2010.5 第2回米中戦略・経済対話（ワシントン）で戴秉国国務委員が提案
- ・2012.2 習近平副主席訪米「互いの『核心的利益』尊重」など主張
- ・2012.5 第4回米中戦略・経済対話（北京）で中国側提案
- ・2012.6 G20（メキシコ）で胡錦濤、オバマがこの問題で対話合意
- ・2013.3 全人代で李克強首相が新型大国間関係について報告
- ・2013.6 米中首脳会談（加州）で習近平が提案
「太平洋には米中両大国を受け入れる十分な空間がある」
- ・2013.9 米中首脳会談で合意（G20；サンクトペテルブルク）
- ・2013.11 ライス大統領補佐官 講演で中国提案に応じたことを示唆

評価

- ・定義、解釈が曖昧（同床異夢？）
- ・中国、周到な時間をかけ、繰り返し持ち出した→特別な意味
- ・「互いの『核心的利益』を尊重」→日本や関係諸国にとって死活的意味
- ・「同盟関係重視とどう融合するのか？」アーミテージ

2012年の2月、副主席だった習近平が訪米して「互いの核心的利益を尊重しようではないか」と。核心的利益には台湾であり、南シナ海であり、尖閣も入っていますから、日本にとって聞き捨てならない。2012年の5月、第4回の「対話」で中国側が再び提案しました。そして6月には「G20」で胡錦濤とオバマが、これについて触れています¹³。これ以降、中国はずっと言い続けるのです。米国も無視できなくなる。

昨年の6月、習近平がカリフォルニアでオバマと会いましたが、その時にも「太平洋には米・中両大国を受け入れる十分な空間がある」と習近平は新型大国間関係を提案します。これは同床異夢なのですけれど、「検討している」ということで2013年9月、G20でオバマは結局のんでしまいました。冒頭、申しましたように、これに応じてライス大統領補佐官が、中国提案に応じたことを示唆する論文を発表したのです。

「大丈夫かな」と、いう感じですが、今のところは同床異夢です。中国側にとっては「これは脈があるぞ」「これで押していくぞ」と言うことになるのですが、互いの核心的利益を尊重するというのは、日本などにとっては死活的なことであり、アーミテージも非常に心配しています。6月25日に、ラッセル国務次官補がこういうことを言っています。「中国には、核心的利益に介入しないように求めるが、我々は核心的利益が議論の対象外になるとは考えない」、同床異夢だということを書いて、米国はこれを否定したわけですが、我々はこれからも注視していく必要があります。

話は少し変わりますが、最近気になる動きで「沖縄は中国のものだ」と、これは毛沢東